

企画展

戦傷病者とその家族が語る戦中・戦後の労苦

生きて、生きて、生きて。

しょうけい館は、これまで多くの戦傷病者と
その家族の証言映像を収集してきました。

今回は、これらの証言映像を上映し、

関連する実物資料と図書を紹介します。



2007年8月1日(水)～9月2日(日)



同時展示

むらしげる 武良茂(水木しげる)の人生

漫画家・妖怪研究者として著名な水木しげる(本名:武良茂)氏は、南方ラバウルで戦傷を負った傷痍軍人としても広く知られています。一兵士・武良茂氏が体験した激戦地での生活、受傷、そして復員。敗戦後の混乱期を様々な職に就いて乗り越えたご労苦を作品や個人資料、映像でお伝えします。



SHOKEIKAN

しょうけい館

戦傷病者史料館

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

会場:しょうけい館1階

開館時間:10:00～17:30(入館は17:00まで)

休館日:毎週月曜日

入場無料

<http://www.shokeikan.go.jp>



〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 共同ビル九段2号館 TEL.03-3234-7821 FAX.03-3234-7826

証言映像DVDは団体に貸出しております。

生きて、生きて、生きぬいて

戦傷病者とその家族が語る戦中・戦後の労苦

- 2007年8月1日(水)～9月2日(日)
- しょうけい館1階
- 10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 休館日:毎週月曜日
- 入場無料

終戦から半世紀余りが経過して、戦争体験者は年毎に少なくなっています。いまなお戦傷病者とその家族の労苦は続いています。その労苦はさまざまで、戦傷病者とその家族の数だけ存在します。「さまざまな労苦」とは、どのようなものがあるのでしょうか。

戦中・戦後を生きぬいて、さまざまな労苦を乗り越えた戦傷病者とその家族の体験を、証言映像・実物資料・図書によりご紹介いたします。

シアター上映タイトル

「傷痍軍人の妻として」
 「遙かなる故郷」
 「字を書く手を受傷して」
 「衛生兵ゆえの感染」
 「支えられた歩み」
 「療養所は大きな家族」
 「赤レンガのぬくもり」



証言映像シアター(1F)

「父のまなざし」
 「伸びきった最前線での受傷」
 「衛生兵のビルマ戦線」
 「親指が支えた人生」
 「受傷した身にまた召集が」
 「平和の光を見つめて」



戦傷病者の労苦を語り継ぐ



治療の順番を待つ間、枕にしていた雑嚢

当館は、戦傷病者とその家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、昨年3月に開館致しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とその家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

2F 常設展示



1F ご利用できる施設



総合案内受付



情報検索コーナー

ここでは、①実物資料、②図書、③証言映像、④戦傷病者の記録について、検索できます。



図書閲覧室

戦傷病者の体験記や従軍体験者の回想記を中心に医療、援護施策に関する書籍などを収集しています。自由に検索・閲覧できます。



●地下鉄をご利用の場合
 「九段下」駅6番出口から徒歩1分
 (東西線、半蔵門線、都営新宿線)

●都営バスをご利用の場合
 「九段下」停留所から徒歩1分
 (高71系統(九段下～高田馬場駅))

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
 ※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。